

説教 門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

ルカによる福音書 第11章5～13節

求めない人はいるのだろうか

だれもが何かを求めて生きています。その求めている何か自体が、わからないことも多くあります。自分が何を求めているか知らなくて探している。あるいは、自分には明確にその目標がわかっていると思うこともあります。それでも、その目標を手にするより更に次の目標を求めはじめます。求めるものがあって必死のときに生きている実感があがるのかもしれない。求めることも、手に入れることも、また探すこともゲームではありません。それほどに必要なものだからです。それほど真剣に求めているからです。むしろ、何を求めてよいかわからないとき、生きていること自体が停滞してしまっているように感じます。求めること自体で人は生きているとも言えます。

求めることは、ひそやかな行為です。「ちょっと欲しいから」と求めるものではありません。今の自分には到底無理だと考えるけれど、でもやはり心の底から願うものが誰にでもあるのではないのでしょうか。その願いの真剣さは自分にしかわからないのではないのでしょうか。人に話せば笑われてしまうような大きな願いや夢をだれもが持っていると思うの



谷口 裕子

大学宗教主任

特集 ようこそ青山学院へ

新入生の皆さん、青山学院での生活はいかがですか。各部の方に、新しい仲間に向けた言葉を頂きました。

Special Issue : Welcome to Aoyama Gakuin

神様に守り、導かれて



久保 小枝子

幼稚園教諭

新入園児の皆さま、ご家族の皆さま、ご入園おめでとうございます。皆さまがいらっしゃる日を心待ちにしていました。これから3年間、神様に守り導かれて、共に聖書の御言葉に耳を傾け、祈りを合わせ歩んでいけたら幸いです。

私達は、聖書の御言葉を聴き、讃美の歌を歌い、祈る「礼拝」を通して、神様の計り知れない愛を感じ、知ることが出来ます。幼稚園では、子ども達の生活の中心に礼拝を置き、もっとも大切にしています。合わせて、日曜日それぞれの教会で礼拝を守ることが各家庭で大切に頂いております。

さて、これらのことを通して神様の大きな愛を感じ、知っていくこととなりますが、この幼稚園にはもう一つ、神様のなさる業を身近に感じることがあります。それは、都会にありながら恵まれた自然豊かな庭です。この庭は神様が造り、守られる豊かな恵みで溢れています。子ども達は四季折々、たっぷりとした時間の中で、草花、実のなる木、虫や鳥などを通して、友達とたくさん発見をしていくのです。

昨年の秋、園庭の柿の木に555個の実がなりました。子どもたちと保育者は力を合わせて収穫しました。また今はグレープフルーツが豊作になり、いっぱい、いくつあるかな?子ども達とグレープフルーツの木を見あげて心躍らせて数える毎日常です。また、例年、数えきれないほどのおたまじやしりが池に泳ぎます。これは毎年3月初旬に冬眠から覚めたヒキガエルたちが池に集まり、産卵し、孵ったものです。冬眠から覚めたカエルに出会えた時、寒い冬の間も守り導いて下さった神様の御業を感じ、子ども達もそして私達も喜びで溢れるのです。

聖書のマタイによる福音書6章26節にこのような御言葉が記されています。「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか?子ども達は神様の造られた自然を通して神様の愛を感じていきます。それらの自然以上に神様は私達一人一人を愛し、守り導いて、養い育てて下さるのです。神様を知り、その愛と恵みを感じ、心安らかに一日一日大切に共に過ごすて参ります。

しょうぶのなかまだね



大いずみりかこ

初等部2年

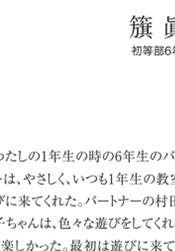
1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。わたしたちは、みなさんが入学するのをとてもたのしみにしていました。しょうぶは、とてもたのしい学校で、みんなやさしくくれますよ。

しょうぶでは、まい日れいはいをします。わたしは、あたらしいさんびかたくさんおほえました。おいのりは、さいしよはやりかたがわからなくても大じょうぶですよ。じぶんのおもっていることを正しきにかみさきにおはなすればいいのです。

しょうぶには、5つのおやくそくがあります。しんせつにします、正しきにします、れいぎ正しくします、よくかんがえます、じぶんのことはじぶんでします、の5つです。わたしはときどきのおやくそくをまもらないときがあるけれど、りっぱな上品ゆう生になれるようがんばります。

しょうぶの1年生には、6年生と2年生のパートナーのおいさんおねえさんがいて、なんでもおしえてくれる。しよほにあそんでくれます。パートナーさんがやさしいのは、きっと1年生のときに、やさしくしてもらったからだとおもいます。わたしも1年生といっしょにあそんでやさしくあげます。しょうぶのなかまだね。

ついにこの時をむかえた



籾 眞由花

初等部6年

わたしの1年生の時の6年生のパートナーは、やさしく、いつも1年生の教室に遊びに来てくれた。パートナーの村田佳瑛子ちゃんは、色々な遊びをしてくれてとても楽しかった。最初は遊びに来てもらっても、ドキドキしてしまって、なかなか一緒に遊べなかった。けれど、たくさん遊びに来てくれるうちに仲良くなった。縄跳びの後ろ回りや前回り、綾跳びを、ていねいに教えてくれた。たくさん教えてもらって、一緒に遊んでいるうちに、最初は苦手だった縄跳びが好きになった。

洋上小学校出発日、かめりあ丸を、佳瑛子ちゃんと、上の階から下の階まで見て回った。横浜港でお別れの時、佳瑛子ちゃんが投げた紙テープをキャッチできてうれしかった。たくさん紙テープは、6年生と1年生をむすぶお宝みたいに見えてすごかったことを今でもよく覚えている。それから、しばらくして洋上小学校から佳瑛子ちゃんの手紙がといて、うれしくてびっぴりした。その手紙は、きれいな文字でまとまった文章で、まるで大人が書いた手紙のようだった。その時に、この手紙のようなきれいな文字が書けるようになるといういな、と思った。

今年4月、ついに自分にもパートナーができる。1年生のちゃんとしたお手本になれるから心配だけれど、佳瑛子ちゃんがたくさんやさしく遊んでくれたことを思い出し、1年生と、ゆっくり仲良くなっていくといい。洋上小学校から、新1年生に、きれいな字で、読みやすい文章を書き、きれいな絵を書いて手紙を送りたい。あの時の佳瑛子ちゃんのように。

中等部65期生のみなさんへ



井上 祐貴

中等部教諭

青山学院中等部65期生のみなさん。中等部に入学してから2ヶ月弱が経ちましたが、今自分が中等部にいるということのように感じているでしょうか。私にもみなさんと同じときがありました。そう、私もみなさんと同じ、青山学院中等部54期生として過ごした中学時代があったのです。

5月の後半という、4月の右も左も聖書の開き方もわからない時期から少し経ち、ちょうど中等部に慣れた頃かと思えます。私の場合、受験をして中等部に入ったので友人ができる心配だったし、小学校とは違う勉強についていけるか不安でした。特に、小学校の項目別的小テストから中学校の中間・期末試験へとテストの形式が変わり、今は自分に合った勉強方法を探すのに悪戦苦闘…むしろは、目の前の試験に必死でそれすら考えられていないかもしれせん。しかし、今はそれでも良いと思うのです。よく、「先のことを見通して、計画を立てて物事を考え、実行しない」と言いますが、中学1年生では「目の前のことに全力で取り組む」ことが最も重要なのではないかと思います。今、目の前の課題に全力で取り組むことを積み重ねれば、たとえ計画性に欠けていたとしても、ドキドキしてしまって、なかなか一緒に遊べなかった。けれど、たくさん遊びに来てくれるうちに仲良くなった。縄跳びの後ろ回りや前回り、綾跳びを、ていねいに教えてくれた。たくさん教えてもらって、一緒に遊んでいるうちに、最初は苦手だった縄跳びが好きになった。

でも、高等部に入学して初めてキリスト教に触れたという人にとってはいきなり礼拝とか、聖書とか神様などと言われるとなんだか重たく感じてしまうかもしれませんが、僕も青山学院に入学してすぐの頃は正直少し抵抗がありました。でも、礼拝も毎日受けていれば自然と慣れてきますし、慣れてくると先生たちのいろいろなお話が聞けて楽しいなと思えてきます。最初はつらいかもしませんが、あまり重たく考えずに色々な考え方があるなど先生たちのお話を傾けながら徐々に慣れていければいいと思います。礼拝の時間を有意義に過ごすことができれば学校生活も変わってきますよ。

ここで言う「全力で取り組む」とは何か。それは、「誠実であること」です。勉強に対して誠実に取り組むとは、与えられた環境に感謝することです。世の中には、勉強したくてもその環境が十分に整っていない人がたくさんいるのですから。友人に対して誠実であるとは、ウソをつかず、相手を自分と同じ価値ある存在として認めることです。人それぞれ個性がありますが、しかし、個性は優劣をつける権利を一体誰が持っているのでしょうか。イジメも、相手に対して誠実でなくったとき起こります。勉強にせよ、友人関係にせよ、小手先の技術になるのではなく、誠実であってほしいと願っています。

高等部へようこそ



伊藤 啓起

高等部3年

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。2011年度青山学院高等部生徒会長の伊藤啓起(いとうひろき)といいます。もし学校で見かけたときは気軽に声をかけてくれたりして欲しいです。今回はどうやら楽しい学校生活が送れるのか、僕が今までの高校生活で感じたことを少しお話ししようと思えます。

まず、はじめに、青山学院はキリスト教主義の学校です。高等部でも2時間目が終わると、毎日15分間の礼拝の時間があったり、授業にも聖書という時間割がありキリスト教について学んだり、普段の学校生活の中にキリスト教と触れ合う機会がたくさんあります。

でも、高等部に入学して初めてキリスト教に触れたという人にとってはいきなり礼拝とか、聖書とか神様などと言われるとなんだか重たく感じてしまうかもしれませんが、僕も青山学院に入学してすぐの頃は正直少し抵抗がありました。でも、礼拝も毎日受けていれば自然と慣れてきますし、慣れてくると先生たちのいろいろなお話が聞けて楽しいなと思えてきます。最初はつらいかもしませんが、あまり重たく考えずに色々な考え方があるなど先生たちのお話を傾けながら徐々に慣れていければいいと思います。礼拝の時間を有意義に過ごすことができれば学校生活も変わってきますよ。

あとは、自分の好きなことを見つけてそれに打ち込むことができると思います。例えば、部活をがんばる、趣味に熱中する、友達をたくさん作ってたくさん遊ぶとか。もちろん勉強も忘れません。就職活動においてもそうです。「自分は他人と違うところがある」ということ、自分には表現できる文化があるとありますが、すでにこれは外観や表現の問題ではなく、自分のスタイルや好みや考えを持つこと自体にたいする不安です。

ところで、「学ぶ」ことにおいて、このような不安は大きな障害となります。多様な視点や、対立する意見の存在に耐えられなければ、視野を拡大していくことはできません。就職活動においてもそうです。「自分は他人とどこが違うの?」ということばかり気にする人の結果は知れています。「神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求」することは、今日においては、営利目的のために日々作りだされている不安からいかに逃れて、精神を自由に活動させていか、ということにかかっているように思います。高等部での3年間がすばらしい時間となりますように、一緒に楽しい学校生活を送っていきましょう。

神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求し



輪島 達郎

女子短期大学 教養学准教授

「青山学院教育方針」という文書があって、いろいろなところに掲載されているのでぜひ読んでいただきたいのですが、これを読むたびに、自分の研究や教育、日ごろの人生態度を反省させられます。その中に、「神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求し」という言葉があります。この言葉について、少し考えてみたいと思います。

私たちの精神や社会を奥深くで規定しているものとして「不安」がしばしば挙げられます。19世紀の実存哲学や精神分析学ですぐに使われていた概念です。しかし、近年私たちをおおっている「不安」は、哲学者や精神医学者でないと指摘できないような難しいものではないです。むしろ、生命保険や健康食品の広告があふれているのを見ればわかるように、人生のさまざまなリスクへの不安に対処することは、もはや生活の一部です。

他方で、病氣、戦争のようなリスクは、地域によりませんが、50年前と比べればかなり減ったに違いありません。では、なぜ不安は増大しているように感じられるのか。脅迫されているからです。「流行に乗り遅れるぞ」「あなたの手は雑菌だらけ」「そんなスーパージェン定は取れない」「加齢臭は嫌われる」。不安をあおるメッセージがあふ手この手で流されています。

ここまで日常的に不安をあおられていると、何で他の人と違う?不安になってしまいます。日本には表現を抑制する文化があるとありますが、すでにこれは外観や表現の問題ではなく、自分のスタイルや好みや考えを持つこと自体にたいする不安です。ところで、「学ぶ」ことにおいて、このような不安は大きな障害となります。多様な視点や、対立する意見の存在に耐えられなければ、視野を拡大していくことはできません。就職活動においてもそうです。「自分は他人とどこが違うの?」ということばかり気にする人の結果は知れています。「神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求」することは、今日においては、営利目的のために日々作りだされている不安からいかに逃れて、精神を自由に活動させていか、ということにかかっているように思います。高等部での3年間がすばらしい時間となりますように、一緒に楽しい学校生活を送っていきましょう。

未知なるものとの出会い



池田 麻奈美

大学 法学部法学科4年

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学してから1か月ほど経ちますが、いかがお過ごしでしょうか。

みなさんは大学という新しい環境に期待や不安をいただいていることでしょうか。私自身も新しい友人との出会いに喜んだり、専門性の高い講義に戸惑ったりと入学してすぐの頃は期待と不安でいっぱいでした。しかし、一番衝撃を受け、戸惑ったことは「キリスト教との出会い」でした。みなさん御存じの通り、青山学院はキリスト教主義の学校です。しかし、私はこのことをあまり意識せずに入学生したため、入学式での讃美歌に驚き、学内にチャペルがあり、毎日礼拝があることにごく違和感がありました。その違和感は入学してからしばらく消えませんでした。しかし、キリスト教概論という講義を受け、そして礼拝に出席していく中で徐々に薄れていき、むしろキリスト教というものにどんどん魅かれていきました。大学に入学するまで聖書というものに触れたこともない私でしたが、大学2年生の春に洗礼を受け、いまではキリスト教として神の導きに従って歩む者となりました。

みなさんも大学生活の中でこのような衝撃的な出会いというものを経験することでしょう。そのような時どうしたらいいのか、キリスト教になってわかったことは何か未知なるものに会おう、それは神が私たちをその未知なるものに導いてくださっているということ、そして私たちが歩む道には必ず意味がある、ということ。神の御計画の中に一人一人用意して下さっている、すなわちその道の中で出会う未知なるものも神の御計画の中の一つなので、ということ。神の御計画なので、恐れることはありません。学生生活の中で出会うことには自ら歩み寄り、積極的にチャレンジしてみてください。また、もし神の導きが見えず道に迷いそうになったら、どうぞ礼拝に足を運んでみてください。きっと進むべき道が見えてくることでしょう。入学されたみなさんの歩みの上には神の祝福がありますよう、心からお祈り申し上げます。

高等部より

- 特別礼拝 6/1水 10:15 青山学院講堂
- 伝道週間 6/13月-17金 青山学院講堂
- グリーンキャンプ 7/21木-23土 高等部遠足券
- 秋の伝道週間 10/24月-28金 青山学院講堂
- 創立記念礼拝 11/16水 10:15 青山学院講堂 (宗教主任 長 昌彦)

女子短大より

- チャペルウィーク 5/16月-20金 女子短期大学礼拝堂 女子短期大学礼拝堂 他
- 公開授業 16:20~17:45 5/16月 女子短期大学礼拝堂 講師 小池 寿子(國學院大学教授)
- チャペルコンサート 12:30~13:20 5/18水 女子短期大学礼拝堂 演奏 KISHIKO(コスプレダンサー)

- 宗教講演 12:30~13:20 5/20金 女子短期大学礼拝堂 講師 Alan and Eleanor Kreider夫妻 (米国Associated Mennonite Biblical Seminary)
- 創立記念礼拝 12:30~13:00 11/11金 女子短期大学礼拝堂 (宗教活動委員 秋富 創)

大学より

- チャペル・ウィーク(前期) 5/23月-27金 相模原 5/23月-28土 各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をさせていただきます。
- ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝 10:30~ 5/24火 相模原・青山
- ペンテコステ礼拝 10:30~ 6/13月 相模原・青山 19:00~ 6/14火 第2部
- パパ・コレギウム・ジャパコンコンサート 6/16木 ガウチャー記念礼拝堂
- チャペル・ウィーク(後期) 10:30~ 10/17月-22金 相模原 10/17月-22土 各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をさせていただきます。(宗教センター事務局 平野 修一)

本部より

- 学院創立137周年記念礼拝 11/15火 ガウチャー記念礼拝堂
- Art クリスマス Aoyama 短大 11/22火-12/16金 キャラリ他
- クリスマス・ツリー点火祭 16:30 11/25金 青山 17:20 (宗教センター事務局 平野 修一)